

# クロコノマチョウについて

谷川大海<sup>6</sup>

前号 (No.42) の続きを報告する。1995年3月下旬の日没時の気温が11度を上回る頃から「林の林床」へ越冬成虫の観察に出かけた。4月下旬になっても姿は見られなかった。5月2日午後6時(室温22度)、♂1頭を目撃する。林床内を活発に飛んで、木の幹に止まったところを採集する。採集するまでは、しばらく観察していたが、テリトリー飛翔のようではなかった。羽は少し傷んで、薄くなっていた。マーキング印はなかった。5月20日午後2時(室温23度)。この日は雨の前で曇っていた。待望の♀を採集する。褐色型で、マーキングなし。羽は薄くなっていた。「林の林床」に入るや、驚いて飛び立ち、葉上に止まったところを採集する。マルバヤナギの近くだったので、樹液を吸っていたのかも知れない。

上記(5月20日採集)の♀で、5月20日から27日までの8日間で合計105卵を得た。また、これらとは別に、5月22日に「林の林床」のススキの葉裏で、4卵を発見する。1卵は孵化したばかりのようで、他の3卵はその日の夜に孵化した。これらの4卵は5月14日頃に産卵されたものと思われる。4卵が産みつけられていたススキは、若い柔らかそうな葉であった。他にも探してみたが見つからなかった。

母蝶に産ませた105卵は「鉢植ジュズダマ」で飼育した。自然状態で発見した4卵は、そのままススキで飼育した。5月中旬の自然状態ではジュズダマはまだやっと芽をふきかけた状態なので、食草としては使用できない。筆者の「鉢植ジュズダマ」は冬の間、屋内で育てていたのので、5月中旬には初齢幼虫が食べるには適当な若葉を出していた。幼虫が3齢になる頃には、自然状態のジュズダマも成長してきて、食草として使用できた。

飼育は波板(約50%遮光)小屋で行った。ジュズダマは鉢植にして接近させ、幼虫が自由に移動できるようにした。できるだけ手を使って移動しない方針で行った。ススキの4匹も同様にして飼育した。

ジュズダマ飼育の105卵からは、93頭が羽化。♂45頭、♀48頭。すべて夏型。7月1日から10日の間で、多くは午前5時台に羽化した。蛹化したが羽化できなかったもの、3匹。

ススキ飼育の4卵は途中で2匹が姿を消してしまった。他の2匹は、蛹化したが、1頭しか羽化しなかった。♂。夏型。

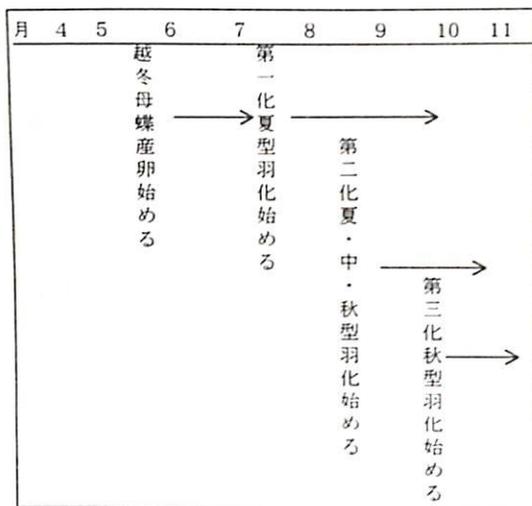
ススキ飼育では1頭しか羽化しなかったが、幼虫期間はジュズダマ飼育に比べると10日ほど長くかかっている。蛹期はほとんど変わらなかった。

「林の林床」では食草として利用できるものはススキしかない。従って飼育の結果から推測して、「林の林床」では羽化は7月中旬以降になるものと思われる。またススキ飼育では羽化率が悪かったので、自然状態でも羽化数が少ないと思われる。

これまでの飼育と観察から「林の林床」およびその付近でのクロコノマチョウの周年経過を図にしてみた。

7月1日から10日に羽化した第一化夏型で、ハンドペアリングを試み、7月11日より14日までの4日間で、合計95卵を得た。これらから8月12日から16日までに、合計22

6: 〒656 洲本市入野 1018-2



頭が羽化した。不思議なことに、すべて♂であった。型は次の通りであった。

夏型 9頭  
 中間型 12頭  
 秋型 1頭

♂しか羽化しなかったが、中間型について述べる。12頭とも翅表も翅裏もあまり変化がなく、それぞれの斑紋もよく似ていた。これは夏型の特徴である。色は第一化夏型のように黒くはなく、薄茶色気味である。第一化夏型♀に近い色である。翅表前翅の小白斑と赤橙色斑に関して

は、小白斑は小さいのが見られる。赤橙色斑は黒色斑紋として現れている。外縁の突出は秋型ほどではないが、はっきりと現れている。秋型の特徴である。翅裏の斑紋は第一化夏型♀に近いが、より明確である。羽の長さ(体長を含む横幅の半分)は

第一化夏型♂10頭の平均 40.1mm  
 今回第二化中間型♂10頭の平均 43.2mm

であった。秋型は中間型よりもさらに長いので、この点でも中間型である。

また今回羽化した第二化夏型♂9頭の羽長の平均は40.7mmだった。よって♂については

第一化夏型

第二化夏型

第二化中間型 の順に長くなっている。

今回の飼育結果から判断すると、中間型を経て、夏型から秋型へ少しづつ移行が行われると思われる。夏型は個性が少なく、秋型は個性的である。

(たにがわ だいかい)

## 編集後記

▽ 遅くなりましたが43号をお届けします。本会も本年で創立30年になります。何か記念事業をと思っておりますが、震災の後始末が残っていますのでどうなりますか？  
 本年度の会費も2000円です。同封の振替用紙で早めをお願いします。(TB)

<b>PARNASSIUS No.43</b>	
1996年2月19日印刷	1996年2月23日発行
編集者 登日邦明	発行所 淡路昆虫研究会
〒656-21 兵庫県津名郡津名町大町畑235	
郵便振替 神戸7-49591	
印刷所 れいめい社	
〒656 兵庫県洲本市本町5丁目1-24	